

全労働者の力で10万人首切り粉碎へ 8・2県労連主催「分割・民営化」反対集会に3000名

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！
●決意表明に立つ中野委員長(右)
(左)本吉国労千葉委員長 (中)井原県労連議長



八月二日、千葉県労連主催による「『国鉄の分割・民営化』答申抗議、国民の足と労働者の雇用・生活を守る千葉県総決起集会」が三千名の県下労働者を結集して千葉市・中央公園で開かれ、「分割・民営化」一十万人首切り攻撃を全労働者向けられた攻撃とうけとめ、断固として闘い抜くことを確認し、千鉄局への抗議デモを貫徹した。

全労働者に向けられた攻撃として闘う

集会は、七月二六日の監理委答申に怒り心頭にはつする国鉄労働者をはじめ、県労連傘下の労働者が大結集する中で十八時にはじまった。

主催者を代表してあいさつに立った県労連の井原議長は「中曽根の一連の反動攻撃は、再び戦争へかたてようとするものであり、国鉄労働者にかつられてる攻撃はその前段のものとして、明日は日教組、自治労、全労働者の問題である。分割・民営化反対の大行動を、労働者愛、同志愛をもって闘い抜こう」と訴えた。

つづいて社会党議員団が壇上にあがり、赤桐、糸久参院議員、小川、新村衆院議員、市川県議、西巻千葉市議から、それぞれ国会、地方議会の場で「分割・民営化」阻止にむけ全力をあげて闘う決意が明らかにされた。「国民の足を守る県民会議」の土屋サク議長は「国鉄問題は国民の問題であり、みんなで手をつないで粉碎しましょう」と訴え、大きな共感を呼んだ。

組織の命運をかける ——本吉国労千葉委員長

「答申」抗議の「8・5スト」を決定し、千五百名の組合員で結集した国労千葉地本を代表し、本吉委員長が決意表明を行った。

本吉委員長は「国労大会は活発な討議を通し、『分割・民営化』阻止を天王山の闘いと位置付け、五千人署名を中心に歯をくいしばって闘う方針を決定した。臨調、監理委の『分割・民営化』の本質と狙いは国労攻撃であり、総評の弱体化を狙う中曽根の陰謀である。答申は長期債務の処理や余剰人員問題等、矛盾だらけであるにもかかわらず問答無用で強行しようとしているが、絶対に許してはならない。歯をくいしばり、組織の命運を

かけて闘う」との決意を表明した。

国鉄問題で自民党を打倒しよう

——中野委員長

動労千葉は全支部から四八〇名で参加し、代表して中野委員長があいさつした。中野委員長は「七月二六日に監理委答申が出されたが、こんな国鉄に誰がしたといたい。マル生闘争に勝利した時、磯崎総裁はなんといったか『合理化を強行したから職場が暗くなった。赤字も財産のうち、心配するな』と、四十万国鉄労働者に呼びかけた。ところが、田中角栄の列島改造計画をはじめ、独占救済のために国鉄を食いものに膨大な設備投資により、アッ、と気がついたら赤字は二二兆円になっていた。それなのに、借金があるからと十万人の首を切り、国鉄を解体しなければならぬなどというたわ言をどうして許せようか。国鉄に介入し、ズタズタにしたのは政府、財界だ。にもかかわらず、一切のツケを国鉄労働者と国民にまわそうとすることは断じて許せない。中曽根は、これを逆転させてわれわれを攻めているが、国鉄問題で自民党政府を打倒しなければならぬのだ。借金は、借金をつくった政府、財界の連中に支払わせねばならない。答申は理不尽にも二年間で十万人以上の首を切ろうとしているが、国鉄労働運動をつぶし、自民党、財界の思うままの労働運動、産業報国会にするための攻撃に対して、国鉄労働者が先頭を切って闘わねばならない。国鉄労働運動の中には、自分だけいい子になって生き残ろうとする連中がいるが、われわれは職場生産点において、国労共闘を強化しながら反撃していく」と述べ、闘う決意と方向性を鮮明に提起した。

集会は「決議文」を採択し、千鉄局前までの抗議デモを貫徹し、勝利するまで闘いぬく決意を打ち固め、成功裡に終了した。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！